

「地域包括ケアシステム」は 「地域共生型社会」実現の体制づくりへ



平成27年4月から開始したこのシリーズは、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生最期まで続けられるよう、「医療・介護・予防・生活支援・住まい」の5つのサービスが相互に連携しながら提供されるしくみである「地域包括ケアシステム」について、本市の取り組みをお伝えしてきました。このシリーズが最終回を迎えるにあたり、これまでの進捗状況と今後についてご報告します。

❖半田市の少子超高齢社会が進む今、必要な「地域包括ケアシステム」の構築

現在、国が進める地域包括ケアシステムの構築は、高齢者人口の急速な増加への対応策としてスタートし、現在は市町村ごとに進められています。本市では、平成25年から検討を始め、平成26年から取り組みを進めてきました。現在は高齢者ケアを中心に、取り組みを進めています。

❖重要な「自助」と「互助」の推進

地域包括ケアシステムは、介護保険等の社会保障（共助）や生活保護等の福祉（公助）など制度によるサービス提供のみではなく、市民のみなさんが自らの健康維持や予防に取り組むこと（自助）や、ご近所同士の見守りや声かけ、老人クラブや自治会などの住民組織による助け合い、市民によるボランティア活動や生きがいつくりなど、市民のみなさんが主体的に参加すること、住民同士が地域社会の中でつながり支え合う（互助）ことの2つがとても重要です。

げんきスポット補助金

高齢者の健康維持や介護予防を目的とした市民活動の運営費の一部を補助。

5つの地区ささえあい活動計画

亀崎・乙川・半田・成岩・青山地区がそれぞれの強みを生かして地域課題を解決する取り組みを進めている。ご近所のつながりや減災、居場所や移動手段、認知症予防など各種テーマで、イベントや講座を実施中。

各種市民講演会の開催

認知症や介護予防、終末期医療や看取りなど、最新の話題を盛り込んだ講演会やイベントを開催。

人生会議(ACP)の普及

誰もが迎える人生の最終段階の生き方や医療ケアの希望について、元気な時に近い人と話し合い、書き留めておく事前指示を普及。

在宅ICTの整備

在宅医療ケアチームが在宅療養中の患者の情報を共有するICTシステムを整備。

認知症安心ガイドブックの発行

「基礎編」「予防編」「家族の心構え編」「若年性認知症」「行方不明への対応」をまとめた小冊子を発行。

認知症カフェの整備

認知症の情報交換やご本人や家族が一息つける場所の整備。

検索機器の無料貸与

認知症による行方不明に備えて発信機「サンタグ」を無料で貸与。

(取り組みの一部を記載)

誰もが迎える高齢期を安心・安全にするしくみから、誰にとっても安心・安全な地域社会づくりへ

医療や介護の関係機関と行政が協働し、高齢者自らの健康管理や介護予防に取り組める環境の整備、自分らしい人生の締めくくりの時期を迎えるための医療・ケアの事前指示や人生会議(ACP)の普及、安心して暮らせる見守りやささえあいのある地域づくりの推進、医療ケアの多職種連携の推進、安心・安全な住まい方の支援など、これまで進めてきた地域包括ケアシステムは今後、高齢者福祉に限らず、子ども子育て支援、障がい者福祉、生活困窮者対策や、関連する地域課題の解決とも横のつながりを持ちながら、すべての方が安心して暮らせるまちづくりを引き続き進めていきます。市民のみなさんもぜひ、わがまち半田まちづくりに参加していただきますよう、シリーズの最終回にあたりお願い申し上げます。

【問合わせ】 高齢介護課 ☎84-0644